



書あり 師あり 友ありて

## 「2021年度学力学習状況調査結果」について

学校長 平田 高之

令和3年5月27日(木)に、中学3年生を対象として2年ぶりに実施されました「全国学力・学習状況調査」につきましては、個人の結果はすでにお返ししていますが、本校全体の分析ができましたのでお知らせいたします。詳細は、以下の通りですが、教科及び生徒質問紙調査とも大変良い結果となっております。なお、本調査における、教科に関する調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることから、明石市では、学校別の平均正答率は公表せず、文書標記とすることとしておりますことをご承知おき下さい。

### 1 実施生徒数

調査対象学年	本校	明石市	兵庫県(公立)	全国(公立)
中学校第3学年	176	2,287	40,320	903,157

### 2 調査内容

#### (1)教科に関する調査

知識・技能、知識・技能を活用する力、課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

○国語(50分)14問    ○数学(50分)16問

#### (2)生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査(20分程度・69項目)

#### (3)調査結果

教科等	平均正答率(%)			
	本校	明石市	兵庫県	全国
国語 (H31)	市平均より5ポイント程度高い	74	73	72.8
国語 (R3)	市平均より5ポイント程度高い	65	64	64.6
数学(H31)	市平均より5ポイント以上高い	62	62	59.8
数学(R3)	市平均より5ポイント程度高い	58	58	57.2

### 3 教科に関する調査分析

#### (1)国語科

- 強み:○本校の平均正答率は、全国・兵庫県平均よりも5ポイントほど上回っており、国語の基礎学力が順調についていると思われます。
- 「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み内容を理解する」問題では全国・兵庫県平均よりも10ポイント程度高くなっています。
- 記述問題では、全国・兵庫県平均と比べて無回答率が大幅に低くなっていることも本校の特徴と言えます。日ごろの授業からプリントでの記述に慣れさせていることがこの結果につながっていると考えられます。
- 領域別、観点別、問題形式別の正答率を見ても、その全てにおいて、全国平均を上回っています。国語の基礎学力が順調についていると思われます。長い文章を短時間で読み取る力は、毎日の朝読書からも培われていると考えられます。
- 課題:●領域別、観点別、問題形式別の正答率を見れば、おおむね全国平均を上回っていますが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域や「言語についての知識・理解・技能」の観点では全国の正答率との差が少なく、本校としては努力が必要な分野と考えられます。具体的には、「行く」の謙譲語として「参る」「伺う」と答える問題で誤答が多くありました。
- 全国・兵庫県との比較で本校の正答率が最も高くなっていたのは「読む能力」の観点で55.8%、県平均より8.2ポイント上回っていましたが、正答率としては決して高い数値ではないので改善が必要だと考えています。

👉 国語の学習をほとんどの生徒が大切だと感じていましたが、「国語の学習が好き」「内容がよくわかる」という生徒をさらに増やし、さらに興味深く、わかりやすい授業を工夫する余地があります。特に、言葉の特徴や使い方に関して日ごろの授業から語彙を増やす取り組みを多く取り入れていきます。

#### (2)数学科

- 強み:○「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の全ての観点において全国・兵庫県平均を上回っています。特に「数学的な技能の観点」は優れています。
- 「数学の勉強が大切だと思う」と答えた生徒が、全国・兵庫県平均よりも約6ポイント高く、約90%を超えています。また、「大切だと思わない」と答えた生徒は、全国・兵庫県平均よりも約6ポイント低くなっています。
- 課題:●学習の中で解答につながる過程である解き方や考え方を大切にしている生徒は全国・兵庫県平均と比較すると少なくなっています。
- 解答を言葉や数、式を使って説明する問題については努力している生徒が、全国・兵庫県平均と比較すると多いのと同じように、全く解答しなかった生徒も多くなっています。

☞ 数学の勉強を大切に思っていることができていることが分かる一方で、解答につながる過程を大切に思っていることへの課題が残っており、今後の授業で過程を大切にすることをより求めていきます。

### (3)英語科(質問紙調査のみ)

○強み:○「英語の勉強は好きですか」という質問に対し、45%以上の生徒が「当てはまる」と回答し、全国・兵庫県平均から15%以上、上回っています。

○「英語を話したり書いたりして、自分の考えや気持ちを伝え合うことができているか」という質問にも47%以上の生徒が「当てはまる」と回答しており、全国・兵庫県平均より16%以上、上回っています。

●課題:●「日常的に英語を使う機会が十分にありましたか」という質問に対しては22.5%の生徒が「当てはまる」と答えています。これも全国・兵庫県平均より上回っていますが、60%以上の生徒が「どちらかといえば当てはまらない」、「あてはまらない」と回答しており改善が必要です。

☞ 自分の気持ちを英語で伝えられる生徒の育成を目標とし、パフォーマンス活動に力を入れています。書いたり、発表したりする機会を多く作り出すことを意識した授業づくりをしていますが、生徒たちはそれを好意的にとらえ、書いたり話したりすることに、徐々に抵抗なく、楽しんで取り組んでいる結果が表れてきていると考えています。

しかしながら、日常的に英語を使う機会が十分であると回答している生徒が少なく、授業で出された課題から発展して自ら興味関心をもって学習していこうとする姿勢までには育っていません。今後、授業の中で、そのような場面設定をいかに作り出せるかをさらに教科研究を進めていきます。

## 3 生徒質問紙に関する調査分析

### (1)生活面

○強み:○朝食を毎日食べている、就寝と起床時刻が安定している割合が全国・兵庫県平均と比べても高く、基本的な生活習慣が身についています。

○携帯電話・スマートフォン等の使い方についてのお家の方との約束については、全国・兵庫県平均と比較しても、各家庭内での約束を守ることができています。しかし、約95%の生徒が携帯電話、スマートフォン、コンピュータを使用できる環境にいるため、情報モラル教育が今後よりいっそう大切になると考えられます。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことである」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合はどちらも96%で、全国・兵庫県平均と比較してもやや高くなっています。他者との関わりについて肯定的な考えを持つことができていると思われまます。学校生活についても肯定的な回答をした生徒の割合は90%を超え、県平均や

全国平均と比較しても非常に高くなっています。

●課題:●携帯電話・スマートフォン等の使い方についてのお家の方との約束について、まだ約束のない家庭の割合が15%あり、生徒のみでなく保護者に対しても使用の際の約束を各ご家庭で設定してもらうなど啓発が必要と考えています。

●全国・兵庫県平均と比較して少ないですが、1日に2時間以上ゲームをしていると回答した生徒の割合は43.3%となっています。ネット・ゲーム依存に陥り、昼夜逆転など生活習慣の乱れにつながらないように、各ご家庭への啓発が必要と考えています。

☞ いじめの未然防止、学級指導や道徳の授業の充実、支援の必要な生徒へのきめ細やかな対応等、誰もが過ごしやすい学級・学年・学校づくりを引き続き進めていきます。

### (2)学級・学年指導

○強み:○「自分によいところがある」と自己を肯定的に捉える生徒が約80%と、全国平均より約10%近く高くなっています。特に、「当てはまる」と回答した割合は約45%で、約10%高くなっている。生徒を認める指導を継続して取り組んできた成果が表れていると考えられます。

○「学校に行くのは楽しいと思う」では、「当てはまる」は約55%、「どちらかといえば当てはまる」は36%で、合わせると約91%となり、全国・兵庫県平均を約10%上回っています。

○全体的には、家族、友人、教員と良好な人間関係を構築し、将来の目標に向かって前向きに取り組んでいる生徒が多いといえます。

●課題:●「学校に行くのは楽しいと思う」では、「当てはまらない」は約3%、「どちらかといえば当てはまらない」は約6%で、全国・兵庫県平均を合わせると約10%低いですが、「楽しい」と答えられなかった生徒に対する支援が必要です。また、困っていることを表現できずに生活している生徒もおり、その人数的な割合が少ないことがかえって負担となっている可能性も考えられます。

●「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しますか」では、「当てはまる」は約15%と、全国・兵庫県平均と比べると、約3~5%低くなっています。同じく、「将来の夢や目標を持っていますか」では、「当てはまる」は約38%と、全国・兵庫県を下回っています。

☞ 今後も生徒を認めていく中で、生徒との信頼関係を築いていくとともに、信頼関係が築けていない生徒、自分の悩みを相談できない生徒に対しては、SC、SSW等と連携してきめ細やかに対応していきます。

また、将来の夢や目標を持ち、それに挑戦する気持ちを持てるよう、「総合的な学習の時間」で、3年間を見通したキャリア教育の充実を図っていきます。

### (3)学習面

- 強み:○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」では「よくしている」が約28%と全国・兵庫県よりも8ポイント高く、「ときどきしている」と合わせると約70%となっています。定期テストの前に範囲表配布とともにテスト計画表を作成し、学級担任が確認し修正しながら計画を立てていることが定着していることが表れていると考えています。
- 「学校の授業時間以外の1日の読書時間について」は「30分以上」は約20%と全国・兵庫県平均とあまり変わりませんが、「10分以上30分より少ない」は約37%と全国・兵庫県平均より約20%高くなっています。また「全くしない」といういわゆる不読率は約22%と、全国・兵庫県平均より約15～20%程度低くなっており、日頃から取り組んでいる朝の読書が定着していることが要因と考えられます。
- 「新型コロナウイルスの感染拡大の臨時休業期間中に、計画的に学習を続けることができたか」には「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が約50%と、全国・兵庫県平均より10%以上高くなっています。
- 課題:●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」では、全国・兵庫県平均よりは低くなっていますが、約30%の生徒が「あまりしていない」「全くしていない」となっており、テスト期間だけでなく、普段から、家庭学習をする習慣づけをできるようさらなる指導が必要であると考えています。
- 「新型コロナウイルスの感染拡大の臨時休業期間中に、学校からの課題で分からなかったことがあったときはどのようにしたか」では、全国・兵庫県平均より約10%低いが、「そのままにしていた」が約6%ありました。

➡ 多くの生徒が、学習・読書習慣が身につけていますが、できていない生徒、また、分からない生徒に対する支援はまだ不足しています。今後、全体一斉指導や全員一律の課題ではなく、タブレット、インターネット教材等を活用して、個別の課題に応じた指導ができるよう、さらなる研究を進めていきます。

### (4)教育研究

- 強み:○全体的に生徒同士の話し合いの活動に関する項目については、本校が継続して行ってきた「主体的、対話的で深い学びに向けての授業改善」を受けて生徒同士が話し合いを行い、自分の意見を言ったり相手の意見を聞いたりする活動が授業内で増えたことを生徒自身も実感していると考えています。特に「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒が約40%と、全国・兵庫県に比べ10%近く高くなっています。
- 「総合的な学習の時間」について、「自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいる」と肯定的に回答した生徒は77%で、全国・兵庫県平均より10～20%高く、学校全体でカリキュラムを作成し、学校全体で身に着けたい力を意識して様々な調べ学習やプレゼンを行ったことで、生徒は成長を実感できていると考えられます。

○道徳授業についても、「自分の考えを深めたり話し合う活動に取り組んでいる」と肯定的に回答した生徒は90%にもなり、全国・兵庫県平均を5～10%近く上回っており、昨年度から「中心発問を一つにし、じっくり時間をかけて全員が発表する機会をつくる授業スタイル」に統一し、様々な生徒の考え方を聞くことによって、自己を見つめるとともに多面的、多角的に生き方について深く考えることができていると考えています。

➡ 引き続き、学校全体で教育研究を着実に進め、さらなる授業改善を図っていきます。なお、来年度本校は「明石市道徳教育研究指定校」として、公開授業を含め研究発表をする予定です。

### (5)情報教育

- 強み:○「1・2年生の時に受けた授業で、ICT機器等をどの程度使用したか」について、「月1回以上」が約33%、「月1回未満」が約56%と、全国・兵庫県に比べて20%以上使用頻度が低く、技術の情報の時間以外ほとんど使用されていない状況で課題の一つでした。しかし、本年度、タブレットが導入され、多くの教員が授業だけでなく、特別活動等でも積極的に使用することで、「ICT機器をどの程度使用していますか」について、「ほぼ毎日」が約55%、「週1回以上」と合わせると92%で、全国・兵庫県平均より約40%高くなっています。
- 「ICT機器を使うのが勉強に役立つ」については「役に立つと思う」が約71%と、全国・兵庫県平均より10%以上高く、「どちらかといえば役に立つと思う」を合わせると約97%となっています。
- 課題:●「ICT機器を勉強のために使用している時間」については、「30分より少ない」「全く使っていない」が、全国・兵庫県平均より低いが33%となっています。

➡ 2年前の調査でも、授業におけるICTの活用状況の低さが本校の課題でしたが、昨年度末にタブレットが導入され環境が整ったことで、タブレットを積極的に活用し、生徒たちの意識も変わってきました。さらにICT機器を活用しやすい環境整備を整え、授業改善に活用するとともに、生徒たちの情報活用能力の向上を図っていきます。

ご家庭における基本的な生活習慣・学習習慣の定着が、今回の大変良い結果につながっていると考えております。今後も、お子様との豊かな関わりや本校教育活動へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。この結果について何か質問等ございましたら、ご遠慮なく学校長までご連絡下さい。